

第2号様式（第3関係）

第3回豊山町中学校施設整備基本構想会議議事録

- 1 開催日時 令和3年9月1日（水） 午前10時～
- 2 開催場所 豊山町役場 2階 会議室1
- 3 出席者
名古屋市立大学芸術工学研究科 教授 鈴木賢一（会長）
愛知工業大学工学部 教授 鈴木森晶（副会長）
愛知教育大学教育学部 教授 風岡治
愛知学泉大学家政学部 教授 前田治
社会福祉法人豊山町社会福祉協議会 会長 池山和徳
豊山中学校 校長 篠田弘男
豊山町議会 議長 水野晃

事務局
教育長 北川昌宏
教育委員会事務局長 安藤憲司
教育委員会事務局学校教育課長 井戸茂治
教育委員会事務局学校教育課学校教育係長 菊地智行
教育委員会事務局学校教育課学校教育係主任 安藤幸雄
産業建設部建設課土木・農政係主事 上田卓

阪急コンストラクション・マネジメント株式会社
名古屋事務所 営業部部長兼名古屋事務所副所長 杉田昌彦
東京本店 CM部 チーフマネジャー 佐藤学
名古屋事務所 CM部 チーフマネジャー 山口友香 理
- 4 欠席者
中部大学人間力創成総合教育センター 教授 武者一弘
豊山中学校PTA 顧問 小川晃永
- 5 傍聴者
鈴木美穂
坪井孝仁
作野桂子

6 議題

- (1) 今後の日程について
- (2) 目指すべき中学校のあり方について―意見交換―

7 会議資料

- (資料1) 豊山中学校施設整備基本構想会議スケジュール
- (資料2) 目指すべき中学校のあり方について (委員意見)

8 議事内容

(1) 連絡事項等

事務局：この会議の目的は、中学校の改築に当たり、適正な学習環境の確保、財政負担、将来のまちづくりの観点から目指すべき中学校のあり方について専門的意見を頂きたいということで始まった。教育委員会でも数年にわたり検討してきたが、基本的な考え方として、児童生徒の将来推計から統廃合や学区再編などを考える条件にはない。

学校用地については、新たな用地を確保することは困難であり、町有地の活用又は現在地での建替を基本として考えていきたい。

これらを踏まえ、今回の資料では委員の皆様から様々な意見と教育課題を多く頂いた。学校施設と教育のあり方が直結していることを改めて感じている。

そのことを十分に理解した上で、老朽化している校舎の改築を早く行ってあげたい。生徒、教職員に少しでも早く快適な環境で授業を行ってほしいという強い気持ちがある。

第2回構想会議で委員から意見いただいた協議日程について修正したい。これまでの専門家の意見を踏まえ、住民の皆様が多様なご意見をお聞きする時間と分析する期間を充分に取りたい。後ほど修正したスケジュールについて説明する。

(2) 議題

【(1) 今後の日程について】

事務局：資料説明 「資料1 豊山中学校施設整備基本構想会議スケジュール」
本日第3回構想会議で目指すべき中学校のあり方について意見交換を行う。各分野の専門的な意見を頂いた後に、会議の中で意見交換をしたい。項目が多いので、第3回と第4回に分けて行いたい。
変更前は、10月上旬よりアンケートなどを予定していたが、1月中旬から5月中旬にかけて住民意向調査という形で行っていききたい。調査方法は、今後構想会議で検討していききたい。

最終まとめは、変更前は3月末であったが、変更後は来年6月末とする。

会長：日程変更について意見はあるか。

委員：希望通りである。検討頂きありがとうございます。

会長：長期となるがよろしく願います。

【(2) 目指すべき中学校のあり方について―意見交換―】

事務局：頂いた意見を表にまとめた。第3回、第4回の構想会議で2回に分けて検討していく。本日は、1. 教育環境の質的向上と2. 快適な学習生活空間・環境への配慮について議論を行う。

<1-1. 多様な学習形態への対応>

委員：前回の長寿命化計画時から関わっているもので、それらを踏まえた上で、さらに「個別最適な学び」と「協働的な学び」の形態を考えた時に、個別授業に対するスペースの確保と、GIGAスクールやICTの環境整備が必要である。

委員：階段について、ただの昇降するだけの用途ではなく、入口から目立つ位置に幅の広い大階段を1か所設置して、講演や催し物の観覧などに利用できると良い。

教科センター方式について、今後50年そのまま施設を使い続けるわけではないので、改築や改修などでもフレキシブルに利用できるのであれば、教科センター方式にはこだわらない。

委員：今回の資料について、各委員の意見を集約してあれば良かったと思う。各委員で同じ意見があれば優先順位が上がってくるので、整備内容が見えてくる。

会長：事務局で集約し、意見の傾向を提示してほしい。

委員：廊下の間仕切りは移動式にし、オープンにできるようにしたい。全開にすれば授業参観や避難時にも良い。広い廊下と階段もあると良い。

各階に学年室や個別指導、教材保管ができるスペースがあると良い。現在は、2・3階に学習室があるが、1階(3年生)にはない。

GIGAスクール構想の推進や、タブレット端末を活用して従来のPCや図書館と連携ができると良い。

ICT整備として電子黒板(スクリーンと黒板の兼用)の導入。

食育関係で地域と連携できる配膳室や家庭科室、ランチルームなどの整備を行いたい。

運動場、武道場、音楽室、テニスコートの整備、文科系部活動の活動スペースの確保を行いたい。

タブレット端末の保管場所、施錠ができる環境を整えてほしい。タブレット自体を机に収納できると良い。

吊り下げ式モニターの設置及びICT環境の電源確保は必要。

会長：現場に即した意見でありとても参考になる。

委員：特別教室は、一般的にPC室や視聴覚室などがあるが、豊山中学校独自の特別教室があると良いと思う。天井付けプロジェクター、壁面のホワイトボード化などが便利である。豊山中学校に何か目玉になるような余裕教室があると良い。

少人数、グループディスカッションなどの様々な学習形態に自由に変えられる教室の設えについて、また学校内でどのように人間性を育てていくのかについて気にしている。不登校やいじめなどへ対応のできる居場所が必要である。

交流スペースは、自由度の高い空間が良い。

階段は、地域利用にも配慮した扇型を想定している。バリアフリーの配慮も必要。自分の言葉で主張し、発表できる場所があると良い。また、各室のモニターで様子が視聴できるようなシステムも併せて設置すると良い。

地域の偉い方や卒業生など言葉や物を掲示できると良い。

廊下などに生徒の作品などを掲示できるスペースがあると良い。以前、廊下に花を飾ったところ、生徒が落ち着いた事例がある。

校歌・校訓の見える化、学校の伝統をどのように表現するかが重要。

委員：流行りに流されて壁無し教室は採用すべきではない。経験してきた中で、仕切りはきちんとあり、視界を遮っている方が良い。以前、数学の授業中に隣の英語のテープ音が聞こえてきたことがある。今でも従来型の教室が続いているのは意味があるのだと思う。

将来を考慮したフレキシブルな室の確保が必要。1学年1室程度、多目的教室のような室があると良い。5年先ではなく、20年先を見据えた計画としたい。

箱ものを作ったから良しとするのではなく、要望から必要なものをつくるようにしないとイケない。タブレットを配布したからこそ、モニターも必要となる。

タブレット普及による若者のPC離れにも対応できるようにしたい。

食育の情報発信として、新しい給食センターからも情報発信できると良い。現場の先生の意見は貴重である。

会長：普通教室、特別教室が手狭である。従来の部屋の大きさから見直しが必要。

また併せて持ち物、収納や机なども見直さなければならない。天井も3mでは低く感じる。

特別教室は教科センター方式が良いということではなく、2極化しているので中間的な学習スペースがあると良い。グループディスカッションなどを行える空間。例えば、特別教室は教科毎ではなく、国語、英語、数学な

どの一般教育はアクティブに使用できるスペースにして、図書館などと連携したメディアセンターを設置するのも良い。

従来の黒板とチョークから、ホワイトボードや移動家具などのフレキシブルに使用できるものをICT化と併せて検討したい。

委員：アクティブな授業のイメージが参考になった。特別教室型と教科センター型との中間のようなものも良い。

会長：教科センター方式は、うまく活用できていない場合が多い。建築と運営との調和が必要となる。もし導入するのであれば専門家の意見が必要となる。また、先生方の研修なども必要となる。

音の問題についてはよく言われることである。移動間仕切で開閉時の遮音性能があるものもあるが、音の広がりなどにも配慮が必要となる。

委員：以前に体育館で講演を行った時、同時に複数名で行ったが、あまり音が気にならなかった。ワンフロアで中央に壁があり、講演者は背中合わせの形で講演した。ただし、反射音の検討は必要になる。

閉じた空間が必要な場面と、オープンな空間が必要な場面があるかと思う。

< 1-2. 学校ごとに特色のある教育環境 >

委員：全体的に論点が拡散しており、どこに当てはまるのかが不明である。個別の意見だけが出て終わってしまうのではないか。

項目について、校舎のあり方を考えた場合に、現有地であれば、小学校、中学校共に古いので、小中一貫校を検討しても良いかと思う。

現状は検討されていないということだが。

会長：論点が見えていない中での議論には懸念がある。本日挙がったものを事務局で集約してほしい。

委員：小中連携であれば現所在地が良い。今の場所か移転にするかの方向性は早めに決めた方が良い。

福祉の立場からは生涯学習の共同体と考え、公共施設は集約する方が良い。

会長：場所の選択については議論しないといけないと思う。

委員：小中一貫校を目指すべき。現有地か移転かの議論をしなければいけない。

地域連携については必要となる。運動場などを使って地域の活性化になることが必要である。

委員：地域に開かれた学校は大切である。連携を進める上で、地域の活動スペースや展示室も必要である。

委員：職員室について、採点や成績処理を行うだけでなく、教員は子どもの情報交換を行い、先輩教員の仕事を見て学ぶことができる職員室が良いと思う。

会長：資料については、項目別だと話しにくい側面があるので、トータルで取り纏めて良いと思う。

委員：町内では、豊山中学校が最高学府の位置付けになると思う。生徒達が町内で活躍する場所であり、生涯学習も含めた拠点施設としたい。

会長：今回の改築が、町の拠点施設になることは良いと思う。単なる学校施設ではなく、まちづくりの拠点となり、みんながその方向を向いていくと良い。そのために社会教育センターとも上手く連携できると良い。

以前携わった豊田市浄水中学校は、公民館と中学校の複合施設である。当初は複合施設であることに懸念があったが、結果として、中学生だけでなく地域が利用することで夜間や土日でも利用でき、町の活気が出てきた。

委員：地域連携について、地域の方が日常的に学校場で学習することは必要であると思う。その際に、学校教育の場と生涯学習の場は違うものとなるため、施設管理も含めて検討する必要がある。学校教育のコアとなるスペースと地域のスペースとの棲み分けや活用の方法を考える。

国からの補助金を考えた場合、学校施設か生涯学習施設かで変わってくる。校長が管理する形の学校施設であれば、生涯学習部分は指定管理者（浄水中学校、高浜小学校など）とするなどの棲み分けができる。両方の機能を持った教育拠点としての役割分担を考える必要がある。

最近では、学校施設の指定管理者についても、複合化して地域で管理する形も多く見受けられる。地域の連携を考えるに当たり、まずは必要性を考慮し、施設を形にすることが重要である。

会長：運営管理で頓挫することもあるので、複合化については議論しなければいけない。

< 1 - 3. 生徒数に対応した空間の確保 >

委員：長寿命化計画に記載のものを検討する必要がある。

委員：施設については、50年後を見据えて自由にレイアウトできるようにしてほしい。

委員：今後、生徒の増加はないと思うため、これからは少人数教育などの対応など、多目的に利用できるようにしたい。インクルーシブ教育も必要である。個性を持って学んでいける場所や思いやりの心を育む環境づくりが必要。

委員：生徒数は現在540名であり、今後は減少傾向である。500名前後を推移すると思われる。

現在は、1年生が35人学級、2、3年生が40人学級となっているので、全ての学年で35人学級となった場合に対応できるスペースが必要である。また、収納についても十分なスペースが必要である。

特別支援学級は3クラス構成となっている。（情緒、自閉、肢体不自由）障害の種類によって、それぞれに柔軟な対応ができるようにしたい。

インクルーシブ教育は、バリアフリーやユニバーサルを進めていきたい。

会長：障害のある子について、学校づくりでは後付けになっていくことがあるので、十分に議論しなければならない。受け入れるレベルだけではいけない。インクルーシブであれば、障害のある子どもをどのように受け入れるのかなど本腰を入れて行わないといけない。自閉症の子などがクールダウンや相談できる場所など、かなり丁寧に対応していかなければならない。豊山中学校がモデルとなるようなものを創っていききたい。また、クラス数については減少傾向であるため、部屋数については今後決めていききたい。部屋数を多めに作っておき、場合によってクラスが増えた場合に転用できるようにしておいても良い。

< 1-4. 働きやすい執務環境 >

- 委員：長寿命化計画に記載のものを検討する必要がある。ICTや校務センター、駐車場などを引き続き検討したい。
- 委員：職員室の一部を机なしのフリースペースとしてほしい。管理ゾーンと教えるゾーンを明確にし、教えるゾーンをクリエイティブな環境にしたい。GIGAスクールなどで今までとは変わっていくかと思うので、新しいものを創っていききたい。
- 委員：教職員の意見を聴いてほしい。教職員は、転勤、転校などにより、様々な現場を見てきている。意見を十分に反映したものとしてほしい。
- 委員：現在の教職員48名の勤務形態は、終日、半日など様々である。現状の職員室は狭い。机がないフリースペースが一部にあると良い。教科担当者毎に集まれる雑談スペースがあると良い。管理諸室は集約してほしい。校長室と応接室、中会議室は分けた方が良い。大会議室、多目的室があると良い。地域連携も考慮し、現状より広い駐車場が必要である。
- 委員：非常勤以外にもボランティアの方のスペースも必要である。
- 委員：職員室は立ち入りにくいイメージがある。移動時間も取られるので、教室の控室のような開放的なバックヤードがあると良い。場合によっては、そこで生徒指導もできると良い。
- 会長：職員室の位置付けで生徒との関係性も変わるかもしれないので、先生方の質の良い執務環境の充実を考えなければいけない。余裕のあるスペースがあると良い。また、これからは、女性教員のための休憩室などの設えも併せて考える必要がある。

< 2. 快適な学習生活空間・環境への配慮 >

- 委員：インクルーシブ教育から広げて、LGBTやハンディキャップへの配慮も必要である。トイレや更衣室などを考えていく必要がある。

今後、意見聴取を行う際に、いろいろなマイノリティのある方の意見を聴くのも良いかと思う。

委員：改築・移転の中で、プールと体育館は校舎と併設してほしい。

委員：校舎は南向きに配置し、自然採光が望ましい。

トイレは、十分な広さ・洋式化・臭気・感染症対策などに配慮し、清掃やメンテナンスのしやすい仕様が良い。

校舎全体の感染症対策として、換気や手洗いが重要。密にならないような手洗い場のスペースを確保してほしい。多目的トイレも設置は必要。

委員：快適な空間を創出したい。省エネなど新しいものが多いが、予算との折り合いがつけば、できる限り先進的なものを取り入れていきたい。

委員：トイレの自動化について、どこまで行うかは予算も含め検討していきたい。

和式便器は、感染症や潔癖症の方で和式を使用する場合もあるので、検討が必要である。省エネ、ユニバーサルデザインについては一般的なもので良い。現況は段差があったので解消すべき。

会長：洋式化していく中で、和式便所の扱いをどうするか決めていきたい。

LGBTについては、男女区別なしトイレが有効か検討する。

木造化については、RC造、S造、W造の検討をしても良いかと思う。地産地消とはいかないが、内装木質化とすることによるリラックス効果が期待できる。

エコスクールやZEB化については、学校自体を省エネルギー化することで、子どもたちに学ばせることもできるかと思う。公共施設のモデルとして真剣に取り組んでも良いかと思う。

生徒からのデザインの採用や生徒が総合的な学習において学校の計画に携わることは、例えば、トイレのタイル選定や機器選定などを行うことにより、トイレに対する思いや、省エネの学習にも繋がる事例がある。総合学習のテーマに取り上げて頂くことで、生徒も計画に参画し、愛着をもってくれるかと思う。

委員よりトイレについて多くの記載を頂いている。トイレを交流の場にと
いう意見があるが、トイレに他の機能を持たせても良いと思う。

本日挙げた意見は、事務局にて取り纏めをお願いする。

(3) その他

事務局：8月26日に、豊山中学校生徒代表及び教職員からヒアリングを行った。

今後9月8日に保護者からもヒアリングを行う予定である。ヒアリング内容は次回会議にて報告する。

9 その他

次回の構想会議日程

10月6日（水）午後3時～ 豊山町役場 4階 研修室2

上記のとおり第3回豊山町中学校施設整備基本構想会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席者1人が署名する。

令和3年9月16日

会 長 鈴 木 賢 一

署名人 篠 田 弘 男